

来週の市場とレート予想

	6/19 (月)	6/20 (火)	6/21 (水)	6/22 (木)	6/23 (金)
無担保O/N			△0.086%	~	0.001%
銀行券	△1,300	ト ン	△1,000	△2,000	△2,000
財政他	+3,500	+25,000	+2,000	△4,000	+1,000
資金需給	+2,200	+25,000	+1,000	△6,000	△1,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(5年・10年・20年・30年) 国債償還(5年・10年)		交付税特会借入・償還	
オペ期日	CP等買入 △300 社債等買入 △200 国債補充供給 +200	貸出増加支援 △7,000			
オペスタート	国債買入 +8,100 ETF買入 +700 国債補充供給 △100	貸出増加支援 +26,400			
(日本)	貿易統計(5月)		日銀金融政策決定会合の議事要旨(4月26日、27日分) 黒田日銀総裁が全国信用金庫大会であいさつ	日銀営業毎旬報告(6月20日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額 岩田日銀副総裁が青森市内で講演	東京都議会議員選挙が告示(7月2日投開票)
(海外)	米 ニューヨーク連銀総裁が講演 米 シカゴ連銀総裁が講演	米 経常収支(1-3月) 米 フィッシャーFRB副議長、ボストン連銀総裁が講演(アムステルダム) 米 グラス連銀総裁が講演	米 中古住宅販売(5月)	米 バウエルFRB理事が上院銀行委員会の公聴会で証言 米 週間新規失業保険申請件数(17日終了週) 米 FHFA住宅価格指数(4月) 米 景気先行指標総合指数(5月) 米 FRB、ドット・フランク法に基づくストレステストの結果発表 欧 ECB経済報告 欧 EU首脳会議(23日まで)	米 バウエルFRB理事が講演 米 新築住宅販売(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、349兆6,200億円から始まった。その後は、13日の短国・国債買入オペや15日の年金定時払いを主因に増加し、週末には357兆3,200億円となった。  
無担保コールON物加重平均金利は、週前半△0.055%~△0.054%のレンジで推移し、積み最終日となる15日にはビッドが厚くなり△0.052%まで上昇した。新積み期初日の週末16日になるとビッドは薄くなり、同金利は△0.06%となった。ターム物は月内エンドとなる1W~2W物を中心に△0.04%台で出合いが散見された。  
14日、FRBは3か月ぶりの利上げを決定し、利上げ幅を0.25%とした。また保有資産の縮小についても年内に着手することを表明した。  
16日、日本銀行は金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定した。  
来週は、国内では黒田日銀総裁が全国信用金庫大会であいさつ(21日)、海外では、フィッシャーFRB副議長の講演(20日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.090
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約8,800億円で、週間償還額の約5,200億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に上回った。入札では、5・10日発行が重なったこともあって、新規案件が増加。ショートターム物の発行が多く、商社・鉄鋼・機械業態で合計4,000億円程度の発行が確認された。発行レートについては、投資家の旺盛な運用ニーズは変わらず、多くの銘柄で0.001%割れでの出合いとなった。14日に、CP等買入れオペが3,500億円(前回 3,500億円)でオファーされた。応札額が1兆2,000億円弱と多かったこともあって、按分レートは△0.005%と前回(△0.007%)から上昇した。  
来週の発行市場は、週間の償還額は3,200億円程度となっている。賞与資金手当ての発行も多く、新規発行増が見込まれる。発行レートは、投資家の運用ニーズが相変わらず強く、概ね横這い推移と思われる。  
現先レートは、-0.1%~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きを予想する。

<TDB>

14日に行われた3M第689回債の入札は、最高落札レートは△0.0991%(前回債△0.0922%)、平均落札レートは△0.1035%(同△0.0970%)と前回債にとほぼ同水準の結果。15日の1Y(690回債)入札は最高レート△0.1128%(前回債△0.1461%)、平均レート△0.1158%(前回債△0.1561%)と前回債からマイナス幅を縮小した。週末のセカンダリー市場では3Mが△0.105%前後、1Yが△0.124%の出合となっている。来週は22日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.095%~△0.09%から始まり、積み最終日である15日受渡しでは、△0.10%近辺までの小幅低下となった。新積み期以降は上昇基調となり、TDB3Mの発行日である19日受渡しでは△0.07%近辺の出合い。週末は国債の大量発行日であったが、前日横ばいの△0.07%近辺で越週した。SC取引では、10年346回債で週末以降△0.20%台前半から半ばの出合いが見られた。5年131回債は、15日の国債買入オペ後bidが増加、△0.30%以下の水準で多く取引された。その他2年372・373・374・376回債、5年130回債、10年334・335・336・338・339・341・342・343・344・345回債、20年159・160回債、30年52・53・54回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。